

STRUM シュトゥルム

第 21 号 平成 25 年 10 月 17 日発行

猛暑の後ようやく訪れた秋。アクティブにいろいろなことを楽しむ機会が多くなりますね。伊都さんの言う、ヨーロッパのように街のあちこちで気軽に楽しめるコンサートが日本でもあればいいのに、と思うこの頃。TRAUBEN のコンサートもいっそのこと野外ステージで！？ 夢は広がります。

近況報告



今年は、恒例の真夏の夜ではなく、秋、それも中秋の名月、月の美しい季節に皆様に応援頂いて、TRAUBEN のコンサートで演奏できましたこと、嬉しく思っています。その 2 日前には日本基督教団、蒔田教会にて、日本風にいうと女性のための最後の駆け込み寺、ミカエラ寮（住所門外不出）支援チャリティーコンサートのメインゲスト奏者として、オルガンとの共演や、他バッハやクライスラーなどの小品を演奏し、こちらも 100 人以上、立ち見がでるほどの大入り満員だったそうです。これまでにない支援金が集まったとシスターにも喜ばれ、音楽の原点である教会での演奏は、ヨーロッパではよくあるのですが、ホールとは違う独特の趣があり、オルガンとの共演も楽しく、これからも教会などで演奏していければと思っています。



相変わらずのヨーロッパの事務手続きの悪さ、遅さで今年もビザの取得に苦労させられ、日本滞在が少し長くなっていますが、ロンドンはずでに最低 10 度を切る寒さとのこと。すでに冬支度が始まり、コンサートも冬仕様、ブラームスやベートーヴェンなど、暗い冬に対抗するためか濃厚でパワフルな曲目が喜ばれるため、日本の美味しい食べ物で体力をつけてロンドン入りをしたいと思っています。 【伊都】

秋の夜、ヨーロッパの風に吹かれて



9 月 23 日、真夏ならまだ明るい開演時間も、日暮れの後。イギリス館の静かな灯りに迎えられ、しっとりとコンサートは始まりました。伊都さんが今春から再取り組みをしているというバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタがホールに響きわたり、一気にクラシックの世界にいざなわれます。

今回の選曲のポイントは「イギリスでもさかんに行われる、ハウスコンサートやサロンコンサートのようなアットホームな雰囲気、前半は純クラシックのもの、後半は古典から現代（タンゴなど）まで、ヴァイオリンの魅力がさまざまに楽しめる、ちょっとヴァイオリン弾いて！と言われて弾くと喜んでもらえる曲たちをメインに選曲しました。」とのこと。後半の曲はボッケリーニ「メヌエット」、ゴセック「ガボット」、クライスラー「岸辺のモリー」、ヴェータン「アメリカの思い出」、ゲーゼ「タンゴ・ジェラシー」など、聞き覚えのある曲で楽しめました。

ピアニストの近藤紗織さんとは、学生時代の雰囲気そのままに、仲の良いコンビです。伊都さんの MC も、ただ単に曲の説明をするだけでなく、ヨーロッパでの経験や、暮らしぶり、日本との違いなどを聞けるところが人気の理由。終演の頃に雨がポツポツ降り始め、皆さんの帰路を急がせました。また来年もイギリス館でお会いしましょう！





いとちゃんの クラシック講座

op.17

イギリスといえばシェイクスピア。演劇の中心でもあるロンドンでは、街中、様々な場所でシェイクスピア作品が上演されています。私個人としては、近くの公園内の野外シアター（ロンドン市内には昔、王室の狩猟場だったという大きい公園がいくつもあります）で夏になると上演される「真夏の夜の夢」等の喜劇が、セリフの意味がわからずともセリフの独特なリズムや節回し、抑揚が面白く、毎年夏が来ると毎日のように通いつめ（立ち見だと500円ぐらいで見れます！）、あまりにも有名だけど、いまいよくわかっていなかったシェイクスピアのすごさをようやく実感しています。もちろん、偉大なる作曲家たちが彼の名作を見逃すはずがなく、シェイクスピアの作品から派生して生み出された音楽は、なんと370以上にも上るそうです。中でも有名なのは、プロコフィエフのバレエ「ロミオとジュリエット」、メンデルスゾーンの劇音楽「真夏の夜の夢」など、「オテロ」や「ハムレット」はオペラにもなっているし、またショスタコービッチは映画「リア王」他の音楽を手掛けていて、本当に数え上げればきりがありませんが、面白いのはロシア人の作曲家の名前が多いことです。もちろんベートーヴェンはロミオとジュリエットと墓場のシーンを思い描きながらカルテット1番の「アダージョ」を作曲したし、彼のピアノソナタ「テンペスト」はシェイクスピアの作品由来だと、影響力はグローバルながらも彼の作品をそのまま使ったのは、イギリス人では、前回取り上げたイギリスを代表する現代作曲家、ブリテンのオペラ「真夏の夜の夢」ぐらいしかなく、多いのがロシア圏の作曲家とイタリアの作曲家です。ドラマチックなこと好きで情熱家なイタリア人はなんとなくわかるとして、一見あまり交わらなそうなイギリスとロシアの文化、民族性が、実は意外とつながりを持っている（ちなみにロシア人はイギリスが大好きだそうです）証拠かなと思ったりしています。

【伊都】

DVD Classic Collection

作品 No.16

「マリア・カラス最後の恋」

没後 30 年記念作品

2005 年イタリア

ストーリー

1957 年、世界中の賞賛を集める歌姫マリア・カラスに近づきたい海運王アリストテレス・オナシスはマリアと彼女を見出したマネージャーの夫を地中海クルーズに招待する。オナシスにも妻がいたが、マリアに魅せられたオナシスは情熱的に愛を伝える。最初は反発を感じるマリアも、自分と同じギリシャ人で貧しい生い立ちのオナシスに惹かれてゆく。

見どころ

本人によく似た美人のマリア役の女優さん。吹き替えのオペラ歌手の歌声がとても美しい。椿姫、トスカ、カルメン（ハバネラ）などオペラの名曲を歌う。が、音楽映画というよりは、世界的なスキャンダルのドラマ化、の要素が強い。60 年代のセレブの生活やファッション、そしてダブル不倫を「へえーっ」とワイドショーを見るような好奇心で見れる感じ。

感想

マリア・カラス、オナシス、ジャクリーヌ・ケネディが話題になったのは、確か私が中学が高校の頃で、マリア・カラスの目と眉が印象に残っている。今回 YouTube で初めてご本人が歌う映像を見たが、情念にあふれた素晴らしい歌声。オナシス役は、いくら本人が年配だとしても、恋愛映画なのだからウソでももう少し若めの俳優さんにしていただければよかったのに……

*DVD は TSUTAYA の店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します。

新アドレスに変わりました

ホームページ itokanoh.com

リサイクルオフィスメール

info@itokanoh.com

後援会メール

trauben@itokanoh.com

編集後記 掃除機をかけるのも辛かった夏、涼しくなって体がよく動くようになり、あのだるさは年のせいじゃなかったのね、とちょっと安心。/ 今年のイギリス館コンサートは 9 月でホントによかった！猛暑日にあの坂を登って来ていただくのはさすがに申し訳なかったでしょうから。/ 毎年冷たい飲み物しかお出ししない休憩時間、今年は温かいハーブティーが好評でした。/ いつも表玄関側からしか見ないイギリス館ですが、バラ園からお隣の 111 番館に抜ける小道もとても素敵ですよ。緩やかなアップダウンの公園周遊コース、この季節のお散歩にいかがでしょうか。/ 次号は年明け！です。皆様お元気で！< ゆ >

発行：加納伊都後援会 TRAUBEN
〒231-0835 横浜市中区根岸加曽台 15
TEL：045-622-6780
FAX：045-621-6423
Email：trauben@itokanoh.com
Homepage：itokanoh.com